
花宮さんちの日常。

氷華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花宮さんちの日常。

【Nコード】

N3219S

【作者名】

氷華

【あらすじ】

花宮さんちの三姉妹がくりひろげるアレとかコレとか。

「シリアス？なにそれ、おいしいの？」

「こらっ、すみれ！食べちゃだめえええ！..」

「.....いや、食べれないから」

一日目。(前書き)

時に下ネタ注意です。

一日目。

妹たちよ。

おねーちゃんはかなしいです。

『エロ動画』なんて単語、どこで覚えてきたんですか？

*

「さくらがエロ動画見てるー！」

そのひとことに、わたしはぎょつとしてブラウザを閉じた。
慌てて振り返ると、くりつと丸い目がこちらを見ている。

「——何回も言ってるけどね、すみれ」

おねえちゃんはエロ動画なんて見てません。

「えー……」

あからさまに怪しげな表情を作る、下の妹のすみれ。

まだ小学生にもなっていないのに、エロ動画なんて口にして……。

お願いだから、小学校に入学してそんなこと言わないでね。先生
泣いちゃうからね。

「でもー、りょうたくんとかちさちゃんとか、みんな言ってるよ。
おっぱ」

「にゃああああ！そんなこと言わないで、ねえ！？」

慌てふためく私の横で、不満いっぱいの顔をするすみれ——の隣
にひょっこりと顔を出したのは、上の妹のつばき。

「やめな、すみれ。さくらはいま、そーゆー話に過敏反応しちゃうの。隠そうとしつつも隠しきれないのが憐れなの。だから、何も知らないふりしてあげないと……」

「あーい」

「……………」

もういいです。妹たちは私のことをそういう目で見ていたんですね。

それよりつばきサン、なんでそんなに冷静に分析するんですか。あと、エロ動画なんて見てないんだからね！ほんとだよ！！

「わかったわかった」

「了解だよー」

いやいや、目がそういうことにしておくよ　って言ってるんですけど！？

「まあ、さくらは置いておくとして。お父さんは見てるよねー」

「ねー」

元凶父親かよ！

でも、それなら納得かも。

私も目撃してしまったことがげふんごふん。

あれはけっこうシヨックだね。——あ、見てないよ？ホントダヨ？

「なんか、男の人と女の人がダンスしてるのー」

「は、ダンス？」

こくりとうなずくすみれ。

でも、それってエロ動画というよりただのダンスだよね……？

「はだかで」

クソ親父なんつーものを見てるんだ！

せめて人目をはばかってみるとか配慮しろよ!!

「うわぁ……まじ引くわぁ」

といったのは、つばき。

いろいろ言われたけども、一番過敏反応(?)しちゃうのはコイツなのでは……。

「つばき、そこはお父さんのこと信じてあげよう。見なかったふり——じゃない、お父さんがそんなもの見るわけないでしょーが! A H A H A H A H A!」

うっ、これが妹たちの嘘だと信じきれないところがね……。

間違つてスパムメールだか何だかのURLをクリックしてしまつたと思えないのがね……!

「仕方ないから、お父さんのことは永遠に闇に葬るとして」
「してー」

……つばきサン、汚いものを見る目ですな!。

まさか、本当に目撃してしまったのか? しちゃった?

「さくらは見てるよね、エロど」
「動画は見てない!」

言いきつた瞬間、しまったと思った。——が、時すでに遅し。
つばきの目が、きらりと光った。

「ふーん、動画は見てないんだ?」

『は』を必要以上に強調するつばき。

「じゃあ、それ以外は観てるのー?」

無邪気に問うてくるすみれ。あれ、でもなんかニヤツしてるよ。
こわいよ!?

このふたり、本当に私の妹か……？

「「ねえ、おねえちゃん？」」

きれいな二重奏となった問いに、私は溜息をつく。

「……みてませんよう」

別にエロくないもん。健全極まりないもん。

まあ、妹をはじめとする家族の面々には見られたくないけど。
見られたら死んじゃうけど。

「本当？」

「ほんとだよお」

弱々しい私の答えに、妹たちは顔を見合わせてアイコンタクトをとる。

その顔をこちらに向けると、子供らしい純真無垢な笑みで言い放った。

「「おねーちゃんのうそつき」」

……否定しきれない自分が情けないです。

それと、妹たちよ。

こういうときだけおねえちゃんって呼ぶの、やめようね

一日目。(後書き)

つづくかも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3219s/>

花宮さんちの日常。

2011年10月8日12時06分発行